

内定者の声



令和 6 年度入省予定
環境省一般職自然系

はじめに

この度は、令和 6 年度『内定者の声』をご覧いただきありがとうございます。

こちらでは、環境省自然系職員(通称「レンジャー」)を志望される方、就活について知りたいという方へ向けて、令和 6 年度入省予定の一般職自然系内定者の経験談や情報を発信します。

例えば、国家公務員試験の勉強方法や、官庁訪問の様子、どのような人がどのような想いでレンジャーを目指したのか等が記載されています。

北海道から沖縄まで、日本各地の国立公園を中心に活躍するレンジャーの仕事は、多岐にわたります。自然環境の保全、野生生物の保護・管理、外来生物の防除、国立公園の適切な利用推進、自然環境教育、ビジターセンター等の施設整備 etc...

これらのキーワードに興味のある方、レンジャーを目指してみませんか？

私たちもこの間までレンジャーを志し、就職活動をしていた学生や社会人でした。『内定者の声』を通じて、お読みいただいた皆様の一助になれば幸いです。

令和 6 年度環境省入省予定
一般職自然系内定者一同

※こちらの情報は令和 5 年度のもので、令和 6 年度以降の国家公務員試験、官庁訪問のスケジュールは、人事院や環境省のホームページでご確認ください。

目次

はじめに	1
基礎情報	3
内定者の概要	6
内定者からの情報	9
内定者 A	9
内定者 B	11
内定者 C	14
内定者 D	16
内定者 E	22
内定者 F	24
内定者 G	26
内定者 H	28
内定者 I	30
内定者 J	32
内定者 K	34
内定者 L	36
内定者 M	38
内定者 N	41
内定者 O	43
内定者 P	45
内定者 Q	47
内定者 R	49
内定者 S	51
内定者 T	53
巻末資料	55
おわりに	57

基礎情報

国家公務員一般職試験および内定までの流れ(令和5年度の場合)

日時	人事院	環境省	ひとこと
(令和5年)2月1日～	国家公務員試験の受験案内がHPに掲載		試験日や申し込み方法など、内容をよく確認。
3月1日～ 3月20日	インターネットによる受験申込受付期間		申し込みが必要。 期日までに余裕をもって申し込もう。
6月11日	第1次試験(筆記)		多肢選択式+記述式。 服装は私服でOK。
6月中旬		環境省 HP で官庁訪問予約受付案内	
7月5日	第1次試験合格者発表	官庁訪問予約受付開始	【人】HPで確認。 合格通知書はパーソナルレコードからダウンロード。 【環】環境省HPを事前に確認。 希望の日時を記入したファイルを、訪問者カード(早めに準備するのがおすすめ)とともにメールで送る。
7月7日		官庁訪問1日目	対面面接。
7月10日		官庁訪問2日目	対面面接。
7月11日		官庁訪問3日目	対面面接。
7月12日～ 7月28日	第2次試験(人物)		人事院の面接試験。 第1次試験合格通知書で指定の日時・場所を実施。
8月1日		官庁訪問4日目	対面面接。
8月2日		官庁訪問5日目	対面面接。
8月15日	最終合格者発表	採用内々定解禁 →最終面接の案内	【人】HPで確認。 合格通知書はパーソナルレコードからダウンロード。 【環】採用内々定と最終面接の案内がそれぞれ電話とメールで伝えられる。
10月3日		最終面接 →内定式	最後の面接。

※こちらの情報は令和5年度のもので、令和6年度以降の国家公務員試験、官庁訪問のスケジュールは、人事院や環境省のホームページでご確認ください。

※【人】:人事院、【環】環境省の略です。

｜ 国家公務員一般職試験

・試験区分

環境省一般職自然系は、国家公務員一般職試験(大学卒業程度)で、「林学」、「農学」、「建築」、「土木」、「農業農村工学」のいずれかの試験区分から採用されます。試験内容、配点、出題分野等の詳細や最新情報については国家公務員試験採用情報 NAVI の受験案内をご参照ください。(国家公務員採用情報 NAVI <https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.html>)

・過去問の取り寄せ

各試験区分の過去問は、人事院開示請求電子申請システムから入手することができます。
(人事院開示請求電子申請システム窓口

<https://www.jinji.go.jp/jyohokoukai/annai.html>)

請求する行政文書の名称等の「国家公務員採用試験の過去の問題」にて必要な問題を申請しましょう。

例)試験名:[一般職(大卒程度)]、試験の区分・請求年度:[林学 試験問題集 平成○～△年度]

※当年度の過去問は試験実施日の翌日から開示請求できます。

※試験問題の保存期間は5年間のため、最大5年分の問題を入手できます。

※開示方法は「人事院地方事務所等での開示(閲覧、写し)」or「送付(写し、CDデータ(PDF形式))」から選択できます(CDデータがおすすめ)。

※過去問の取り寄せには以下のように時間がかかるので注意して下さい。

申請書送付 → (約1ヶ月後)開示決定通知、同封の申出書を送付 → (1～2週間後)過去問到着

※なお、2023年度より、当該年度に実施した国家公務員採用試験について、試験問題集(多肢選択式及び記述式)がHPに掲載されることになりました。人事院の以下のHPに掲載されています。

(https://www.jinji.go.jp/saiyo/siken/mondairei/mondairei_15.html)

・試験内容

第1次試験では、多肢選択式の基礎能力試験、多肢選択式と記述式の専門試験があり、第2次試験では、人物試験があります。試験に最終合格すると採用候補者名簿に記載されます。

｜ 官庁訪問

・官庁訪問とは？

国家公務員として採用されるには 2 つのステップを突破する必要があります。1 つは前述の人事院が実施する国家公務員試験ですが、試験の最終合格のみでは「採用候補者」であり、道半ばです。採用に向けて突破すべきもう 1 つのステップが、官庁訪問と呼ばれる各府省庁等が個別に実施する面接です。ここでは、環境省が行う官庁訪問について説明します。

・令和 5 年度自然系官庁訪問について

官庁訪問の予約

年度により実施時期や予約方法が異なる場合があるため、最新の情報を必ず確認してください。令和 5 年度の場合、6 月中旬に環境省 HP (採用・キャリア形成支援情報 自然系(総合職・一般職))上で予約方法が公開され、人事院の第 1 次試験の合格発表と同時に官庁訪問の予約が解禁されました。今年度はスケジュールが 7 月と 8 月の 2 つの期間で実施されており、それぞれで受付期間は異なりました。電子メールによる事前予約制で、面接実施日 5 日間のうちの第一・第二希望日ほか必要情報を指定のファイルに入力し、メールに添付して送信し、申し込みました。

面接の形式

年度により形式が異なり、その詳細は受けてみないと分かりません。令和 5 年度の場合は、いずれの日程でも環境省本省での対面面接で、1 日に複数回の面接が行われました。なお、訪問者カード(環境省採用 HP から様式をダウンロード、3×4cm 写真貼付)は、官庁訪問予約時にメールに添付して送信しました。本省入館の際は「写真付きの身分証明書(学生証等)」が必要です。

｜ 参考サイト

試験や官庁訪問に関する最新の情報は人事院や環境省の HP でご確認ください。

○人事院 HP 国家公務員試験採用情報 NAVI

<https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.html>

○環境省 HP 採用・キャリア形成支援情報 自然系(総合職・一般職)

https://www.env.go.jp/guide/saiyo/cat_3all/index.html

内定者の概要

	A	B	C	D
最終学歴	高専専攻科 修了見込み	大学卒業	大学卒業見込み	大学院修了
性別	女	女	男	男
併願先	中部地方整備局	なし	東北地方整備局、東北農政局、地方上級	なし
専攻科目	環境都市工学	地盤工学	農業水利学	生態学(海洋)
試験区分	土木	土木	土木	農学
インターンシップ	なし	なし	青森県庁	環境省中国地方環境事務所 広島事務所
趣味	旅行	登山	魚の飼育、アニメ、漫画	読書、サウナ、旅行
学生時代に打ち込んだこと	研究活動	山小屋バイト、研究活動	アルバイト	修士論文、野外調査、アクティブ・レンジャー

	E	F	G	H
最終学歴	大学院 修了見込み	大学卒業見込み	大学院 修了見込み	大学院 修了見込み
性別	男	男	男	女
併願先	民間企業、地方上級	国家総合職、地方上級	民間企業、独立行政法人	なし
専攻科目	環境放射能学	農村環境工学	森林環境教育	海洋生態学
試験区分	農学	農業農村工学	林学	林学
インターンシップ	環境省 関東地方環境事務所 野生生物課	自然環境保全系のNPO法人	環境省 稚内自然保護官事務所	なし
趣味	テニス、旅行	登山、ラジオ	登山、温泉、キャンプ	ドライブ、海外ドラマ
学生時代に打ち込んだこと	野外調査、研究活動	インターンシップ、プロジェクト活動	部活動、ボランティア活動	フィールドワーク

	I	J	K	L
最終学歴	大学院 修了見込み	大学卒業	大学院 修了見込み	大学卒業見込み
性別	女	男	男	男
併願先	民間企業	なし	地方整備局	なし
専攻科目	景観生態学	環境経済学	環境動物昆虫学	生物学
試験区分	林学	林学	林学	林学
インターンシップ	なし	なし	なし	林野庁
趣味	散歩、楽器演奏、 スキー	旅行、お酒	バレーボール、 釣り	旅行
学生時代に 打ち込んだこと	野外調査、 サークル活動、 アルバイト	サークル活動、 アルバイト	部活動、 アルバイト	国立公園巡り

	M	N	O	P
最終学歴	大学院 修了見込み	大学卒業見込み	大学卒業見込み	大学卒業
性別	女	男	女	女
併願先	国家総合職、 独立行政法人	国家総合職、 地方上級	林野庁、 地方上級	地方上級
専攻科目	海洋生態学	森林生態学	造林学	世界教養、 外国語(英語)
試験区分	林学	林学	林学	林学
インターンシップ	環境省本省、 石垣自然保護官 事務所	なし	なし	中部地方環境事 務所
趣味	ダイビング、 旅行、 お菓子作り	釣り、日本酒	音楽鑑賞、登山	バードウォッチン グ、読書
学生時代に 打ち込んだこと	海外留学	研究活動、 日本一周旅行	フィールドワーク	様々な分野に興 味を持ち、学ぶこ と

	Q	R	S	T
最終学歴	大学院 修了見込み	大学院 修了見込み	大学院 修了見込み	大学卒業見込み
性別	男	女	男	女
併願先	国家総合職、 地方上級	国家総合職、 地方上級	林野庁、 中部地方整備 局、地方上級	国家総合職、 地方上級
専攻科目	動物応用科学	生態学	植物系統分類学	動物遺伝資源学
試験区分	林学	林学	林学	林学
インターンシ ップ	なし	なし	なし	なし
趣味	バスケ、麻雀、 ラジオ	植物観察、 写真撮影、 旅行	登山、野球観戦	バレーボール、 カメラ、 洋楽鑑賞
学生時代に 打ち込んだこ と	フィールドワー ク、 アルバイト	フィールドワー ク、 インターンシップ	研究活動、NPO 活動	アルバイト、 サークル活動

内定者からの情報

内定者 A

☆プロフィール

- 【最終学歴】高専専攻科修了見込み 【学年】高専専攻科2年
【併願先】国家公務員一般職(中部地方整備局)
【参加した説明会・回数】自然系採用説明会(WEB) 2回
【試験区分】土木

☆志望動機

私は、国立公園の施設整備を通して、その土地の自然や歴史・文化を国民に届けたいと考え、環境省を志望しました。

中学生の頃から漠然と公園にかかわる仕事がしたいと考えていました。そんな中で、研究活動の一環として地域の生物を保護している公園の施設整備を行ったことで、豊かな自然や歴史・文化に広く触れ合える国立公園の整備に携わり、安全で快適な空間を永く守ることで、後世に残したいと思うようになりました。

☆内定者体験記

【勉強方法】

● 基礎能力試験

過去問を数年分解いて間違えたところの復習をしていました。また、自分が確実に取れる問題に時間を使ったかったので捨てる問題の見極めができるようになっていきました。

● 専門試験

専門試験でも主に過去問を利用しました。3力学については公式を覚えていれば解ける問題も少なくないので、過去に出た公式はできる限り覚えていきました。

● 記述試験

過去問の確認はしましたが、勉強の時間は取っていません。

● 二次面接、官庁訪問

二次面接、官庁訪問に関しては面接シートをしっかりと作ることが一番だと思っていたので、普段からお世話になっている教員の方に何度も添削していただきました。また、面接対策として想定質問集を作成しました。

【官庁訪問】

官庁訪問では、基本的に提出していた面接シートから聞かれる事が多かったです。ただ、面接というよりは会話を通して質問される形だったので落ち着いて面接に挑むことができました。

【内定までの過ごし方、心掛けたこと】

基本的には普段と変わらず過ごしていましたが、新聞やTVのニュースには関心を持って、社会の動きをしっかりと理解するように心がけていました。

☆アドバイス、メッセージ

説明会や座談会など、参加できるものはできる限り参加した方が良いと思います。良いことも悪いことも知らなければ、考えることもできないので、いろいろな話を聞いて自分の納得できる選択をすることが一番だと思います。

内定者 B

☆プロフィール

【最終学歴】大卒

【学年】既卒

【併願先】なし

【参加した説明会・回数】2回程度

【試験区分】土木

☆志望動機

高校で山岳部に所属していたため、元々日本の自然に興味がありましたが、高校時代は自分が自然を楽しむことしか考えていませんでした。しかし、夏季休暇で山小屋バイトをしたことで、開発や登山などの人間の行為によって自然環境に大きな影響を与えていることを実感し、日本の自然を後世に残していくために国立公園の整備に携わりたいと思い、自然保護官を志望しました。

☆内定者体験記

【勉強方法】

大学2年次の冬には自然保護官を目指すようになったので、1年半ほどかけて勉強に取り組みました。国家公務員の1次試験(筆記)は満点を取る必要はないので、点数配分を考慮して学習するのが良いと思います。土木試験の場合、基礎知能試験よりも専門試験の方が配点が高く、また専門試験の中でも工学の基礎(物理と数学)が20問、その他(構造力学、水理学、地盤工学など)が各分野3問ずつ程度出題されるため、工学の基礎でしっかりと点数を稼ぐことが合格の近道と言えます。以下に時期と対策の内容をまとめたので、参考にしてみてください。

大学2年次 冬～

- 試験区分の確認
- 大学の教授(某省庁での人事経験有り)にアドバイスを聞きに行った
- 知り合いに国家公務員試験を受験した人がいたので過去問を譲ってもらった
- すでに学習している“工学の基礎”と言われる数学と物理の分野を学習し始めた

大学3年次 夏～

- 工学の基礎の問題集と並行して、構造力学、水理学、地盤工学を勉強し始めた(工学の基礎ができていない人はそちらを優先した方がいい)

大学 3 年次 冬～

- 専門試験の計算問題は年内に大方完成させた
- 知能分野の数的推理、判断推理は 1 月から始めた(専門ができていない人は専門を優先した方がよい)
- 過去問集を用いて月 2 回程度、基礎能力試験と専門試験を実際の試験時間で解く練習をした

大学 4 年次 春～

- 基礎知能試験と専門試験の知識分野は 4 月から始めた(隙間時間で要点集を暗記した)
- 人事院の面接の前から山小屋でアルバイトをすることが決まっていたので、5 月中旬ごろから面接カードを用意し始め、教授に見てもらおうなどした

このように、私は大学の公務員講座は受講していませんでしたが、早くから対策を始めていたので余裕を持って勉強することができました。

早くから勉強を始めると問題集を何周もすることになり、他の問題集を買うべきか悩むこともあると思いますが、1 つの問題集を何周もして、答えではなく解き方を理解することが非常に重要です！また、専門の問題は解らなければ教授に聞くなどして利用できるものは利用しましょう！

【官庁訪問】

官庁訪問は、初日に行きました。職員の皆さんが働いている空間での面接だったので、職場の雰囲気を感じながら緊張しすぎることなく、会話するように面接を受けられました。談笑する場面もあり、本当に楽しく面接を終えることができました。過去の内定者の声に、1 日が長いので勉強道具や本などを持っていくと良いと書いてありましたが、私は一瞬に感じました。面接のスタート時間にもよると思いますが、午後 3 時には全ての面接を終えました。

【内定までの過ごし方】

私は、大学 4 年次に人事院の試験を受け、最終合格しておきました。そして、大学卒業後は 1 年間ギャップイヤーを設け、海外で自然保護ボランティアに参加したり、日本で高山植物保護パトロールをしたりして、合間で官庁訪問や最終面接を受けました。採用のために心掛けたことは特にありませんが、日本の自然保護については入省してから関わると思ったので、ギャップイヤー中は海外での自然保護について学ぶ期間にしたいと考えていました。

☆アドバイス、メッセージ

早いうちから勉強する人は、モチベーションを保つのが難しいと思いますが、どうして自然保護官を目指すのか、何がしたいのか、何が好きなのかを明確に持つことでコツコツ努力し続けられると思います。私は、大学 3 年次に山小屋でアルバイトしていたことで、学習時間を十分に取ることは難しかったですが、自然を常に感じながら勉強に励むことができたと思います。しかし、後悔したこともあります。それは、勉強ばかりしていて貴重な大学生活を楽しめていなかったことです。

もちろん山小屋バイトや全国各地に登山に行ったりはしましたが、今思えば、そんなに勉強しなくても合格したと思うので、家族の時間や友達との時間をもっと取ればよかったなと思います。また、私は知らなかったのですが、既卒や社会人で内定をもらった人の中には4月よりもはやく働き始める人もいます。既卒や社会人の方はその点も含めて官庁訪問のタイミングを考えるとよいかもかもしれません。人生計画の際に参考に見てみてください。

ン形式で行われる環境省の説明会に参加して、休憩しつつ勉強のモチベーションをあげていました。また、面接に対して苦手意識があったため、友人や大学の先生、キャリアセンターなどを利用し、本番までに出来るだけたくさん面接練習を行うように心がけました。

☆アドバイス、メッセージ

筆記試験の基礎の部分は、絶対落とさないようにひたすら問題演習した方がいいと感じました。面接は深いところまで聞かれるので、自分が何故環境省で働きたいのかをしっかりと考えておく必要があります。友達でも誰でもいいのでいろんな人と面接練習すると新しい発見があっていいと思いました。

内定者 D

☆プロフィール

【最終学歴】修士修了・建設コンサルタント 【学年】既卒

【併願先】なし

【参加した説明会・回数】説明会 0 回

パークボランティア観察会(修士 1 年・5 月)

広島事務所インターンシップ(修士 1 年・9 月)

大久野島ワークショップ(修士 1 年・11 月)

アクティブ・レンジャー(修士 1 年終了後休学)

自然体験教室講師(修士 2 年・コロナで中止)

【試験区分】農学

☆志望動機

私は、幼少期から自然に囲まれた環境で育ち、物心ついたときから自然環境や生物に興味がありました。そして、大学(院)で自然環境や生物についての学びを深めるにつれ、自然環境や生物の保護への関心がより強くなりました。将来は、自然や生物に関わる職に就きたいと思いいやになりました。現在は、国立公園の魅力を引き出し、「インバウンドの獲得」や「自然とのふれあいイベント」などを通して、多くの人に生態系や環境問題に興味・関心を持ってもらうことに尽力したいと考え、レンジャーを志望しました。インターンシップの際に開催した「自然とのふれあいイベント」で、イベント終了後に子ども達から「生き物が好きになった」「地球環境を守りたい」などの感想をもらったのが、私の背中を強く押してくれたのだと感じます。

☆内定者体験記

【勉強方法】

● 試験のスケジュール

私は、学部 4 年にレンジャーという職を知りました。大学院への進学は、あらかじめ決めていたので、大学卒業後は大学院へ進学しました。大学院では、研究が中心の忙しい生活となり、レンジャーを目指すには、情報収集を効率的に行わなければならないと感じました。そこで、直接現地の職員の方に話を聞こうと考え、パークボランティアによる自然観察会に応募しました。その後は、もっと仕事内容を知りたいと考え、インターンシップやワークショップに参加しました。

修士 1 年を終える頃に、アクティブ・レンジャーの募集がありました。レンジャー業務をインターンシップよりも間近で見て、経験したいと考え、大学院を 1 年間休学し、アクティブ・レンジャーを経験しました。アクティブ・レンジャーを経験した後、環境省に入省したいと思いましたが、業務の

取引先の視点も経験しておきたいと考え、大学院を修了後は、建設コンサルタントに就職しました。環境省発注の業務は体験できませんでしたが、他の省庁からの業務を経験することができ、業務の受注から納品までの過程を間近で見ることができ、業務の流れがより鮮明になりました。レンジャーと受注側の両方を経験し、改めてレンジャーを目指すことを決めました。

社会人で受験するにあたり、一次試験は休日に行われたのですが、二次試験や官庁訪問は平日に行われたので、スケジュール調整に苦労しました。社会人で受験される場合には、早めに試験の日程を把握し、自分の抱えている仕事を計画的に処理することが求められるので、逆算思考を大事にしましょう。

● 過去問請求

過去問を手に入れるには、過去問請求を行う必要があります。また、過去問は請求した後、受け取るまでに約1ヶ月かかったので、早めに取り寄せることをお勧めします。私は、10月頃に農学区分で過去10年分を請求しました。

【1次:基礎能力試験(多肢選択式)】

背景;後述の専門試験(多肢選択式)でも述べますが、一次試験の試験区分(林学、農学など)の中に、私の大学(院)での専門分野と近いものが無く、一次試験の専門試験は一からの勉強が必要となりました。国家公務員試験の配点を確認したところ、基礎能力試験よりも得点の比重が高く設定されていたので、専門試験(農学)の勉強に重点をおきました。よって、基礎能力試験の対策に割ける時間は、非常に少なかったです。また、社会人をしていたので試験勉強に割ける時間も限られており、より効率的な学習が求められました。

勉強の方針;試験勉強に割ける時間、本番の解答時間は、共に少ないので全ての範囲の網羅は不可能と判断し、出題数が多い文章理解、判断推理、数的処理、時事問題に重点を置きました。

文章理解、判断推理、数的処理は、過去問(参考書;2023年度版国家一般職[大卒]教養試験過去問500)を繰り返し解きました。勉強に割ける時間も限られていたので、まず1年分を本番通りに解いてから、文章理解、判断推理、数的処理のみを全問正解できるようになるまで繰り返し解き、全問正解すれば次の年度で同様の事を行っていました。結果、参考書には5年分収録されていたところ、3年分しか解けませんでした。時間感覚は身に付きました。本番はとにかく時間がないので、1問にかけられる時間感覚を身に付けるのは大事だと思います。

時事問題に関しては、普段からニュースの確認や、大学の担当教員や職場の上司・同僚などに時事的な話題の会話をすることで対策しました。

【1次:専門試験(多肢選択式)】

こちらは前述の通り、基礎能力試験よりも得点の比重が高く、一からの勉強であったため、重点的に勉強しました。

背景;私は、学生時代では遺伝子や海洋生態学を専攻しており、自分の専門が該当する試験区分がありませんでした。自分の修士号が農学修士であったことから、農学区分で受験することを

決め、10月に過去問を請求しました。本腰を入れて勉強に取り組み始めたのは、年末の仕事納め(12月28日頃)からでした。

勉強の方針;知識がほぼ0であり、勉強に使える時間も限られているため、使用する教材をしばり、徹底的に反復する方針で勉強を行いました。使用したのは、過去問と「公務員試験技術系新スーパー過去問ゼミ農学・農業」という参考書1冊です。インターネットでは、厚生労働省の「乳等省令における規定(抜粋)」を参考にしました。

勉強の実施;まずは、過去問を1年分解きました。得点は、2割なかったと思います。最初の1回目は、得点は気にせず、試験の全体像を掴んでください。後は、「参考書の熟読→必修問題を解く」という作業を繰り返しました。必修問題で満点を取れるようになったら、「参考書の熟読→必修問題を解く→実践問題を解く」という作業を繰り返し、参考書内の問題は全て解くという状態にしました。

お勧めは、必修問題、実践問題のページをそれぞれコピーし、問題だけの冊子を作製することで周回速度が上がります。また、仕事や家事等で十分に時間が確保できないことが想定されていたので、野外調査などで使用する野帳に、覚えたいことをメモし、仕事の休憩時間等の隙間時間に反復していました。

参考書内の問題は全て解くという状態になれば、過去問(1年分)を解きました。分からないところは調べ、問題文の間違った選肢を赤ペン(赤シートで隠せる)で修正し、正答率が8割ほどになるまで繰り返し解きました。他の年度でも同様の事を行いました。結果的に、過去問は3年分しか解けなかったため、受験を考えている皆様には、早めに勉強に着手することを強くお勧めします。

試験後に購入した本なのですが(読書が趣味)、「日本植物病理学会編著 植物たちの戦争」「田島淳史監修 最新版図解知識ゼロからの畜産入門」という本がお勧めです。前者は、農作物の病気等について、写真付きで分かりやすく書かれており、後者は、「公務員試験技術系新スーパー過去問ゼミ農学・農業」では、深く取り扱われていなかった畜産についてが、図やイラスト付きで分かりやすく書かれています。勉強に本腰が入らない、気分転換が欲しいといった方には、とりあえずの読み物としてもお勧めです。

【2次:専門試験(記述式)】

「卒業論文」や「修士論文」、「修士の研究で市の水産課から依頼されていた報告書」、「社会人での環境調査等の報告書の作成」等、ジャンルは少し異なりますが、文章を書く機会には恵まれていたので、2020年の過去問を1度解いたきり文章を書く対策は行いませんでした。その分、どんな題材で出題されるかを予測し、情報収集を行う時間を設けました。例えば、「食料問題」や「線状降水帯等による豪雨などの災害」、「脱炭素」等です。原因や現在講じられている対策、自分の考えを箇条書きでノートにまとめていました。

私の場合は大学院既修であり、文章を書いても添削してもらえるような機会がほぼなかったのですが、誰かに添削してもらえる環境であれば積極的に利用することをお勧めします。

私と同様に、第三者による添削が難しい場合であれば、参考になる回答や文章の構造や型を把握し、質問されそうな題材について調べるといった学習が効率的だと思います。

【2次:人物試験】

2023年に行われた人物試験は、対面で行われました。面接は、大学院入試や就職活動等で経験していたので、対策は、入退室時のマナーの確認くらいでした。

面接は、事前に作成した面接カードに沿って行われました。私は、面接カードは、手書きで作成しました。作成時には、簡略化を心がけました。内容を簡略化することで、字の大きさを保つことができ、面接時は話の深掘りにもつながったので、円滑に話すことができました。また、面接官の方は、傾きや相槌を打ちながら聞いてくださり、和やかな雰囲気で行われ、終始笑顔で臨むことができました。

ある程度の緊張感は必要ですが、笑顔で会話を楽しむことに集中すれば良いかもしれませんね。

【官庁訪問】

官庁訪問本番は、「必ず緊張し頭が真っ白になる」と覚悟していました。そこで、頭が真っ白になっても問題がないように準備に力を入れました。

まず、官庁訪問で尋ねられることは、訪問者カードが軸となっているとの情報を得たため、訪問者カードの完成度を上げる準備をしました。しかし、いくら完成度が高く書けたとしても、知識的なことは、緊張によって頭から飛んでしまうと思ったので、聞かれたことは実体験から答えようと考えました。(実際に経験したことであれば、頭が真っ白になろうと答えられると思いました。)そこで、様々なイベントやインターンシップなどに参加し、レンジャーに関わる経験を積みました。

経験値を蓄えた後は、訪問者カードの完成度を上げることに専念しました。この時、私は既卒かつ社会人であり、添削等を受けることができなかったので、作成した訪問者カードを何度も読み返し、何パターンも作成しました。その過程で、気が付かないうちに訪問者カードの内容が記憶に定着していたのも内定をいただけることに貢献していたと思います。

また、訪問者カードに書けなかったことや質問されそうなことは、A4用紙にまとめました。官庁訪問直前には、そのA4用紙のみを見返していました。

結論として、本番ではやはり、緊張から頭が真っ白になりました。しかし、その様な中で上手くいったのは、実体験から語れることが豊富であり、頭が真っ白になっても実体験から話せたこと、実体験があることで自信を持って臨めたことが、大きな要因であると思います。

【内定までの過ごし方、心掛けたこと】

「自分がやりたいことと実際の仕事内容とのギャップを埋めること」と「様々な視点でより多くの経験と積むこと」、「面接や官庁訪問では、実体験から話をできるようにすること」を心がけました。

私は学生時代に、生物や自然に関わる仕事に就きたいと考えており、「レンジャー」と「生物系の

民間企業」が候補にあがりました。そこで、本やネットで情報収集をしましたが、収集できる情報量と解像度に限界を感じ、これらの情報だけだと、「就職後に理想と現実でギャップを感じるのではないか?」、「ギャップが大きかった場合、仕事を楽しめないばかりでなく、生物や自然を好きではなくなるのではないか」と思いました。

そこで、ギャップを小さくすべく、実際に現場に身を置き、職員の方に話を聞くことにしました。学生時代には、環境省のイベントやインターンシップ、アクティブ・レンジャーを経験しました。大学院を修了した後では、民間のコンサルタント業界に就職し、国からの業務を受注する側で、生き物や自然に関わる仕事を体験しました。

それぞれの立場に身を置くことで、「同じ業務でも立場によって考え方が異なること」や「求められることが異なること」を学びました。そして、自分のやりたいこと、自分に合ったことを見つめ直すことができ、ギャップ等含めて、自分の進むべき道を見つけることができました。

また、これらの経験が面接や官庁訪問での話のタネになり、円滑にステージを進めることができた要因の一つだと思います。

☆アドバイス、メッセージ

インターンシップやイベントなどに積極的に参加し、実体験を積むことが大切だと思います。実体験を積むことで、自分の理想と現実のギャップを小さくできるだけだけでなく、面接・官庁訪問での話のタネ作り、自身のモチベーション向上が期待できます。特にインターンシップでは、実際に業務を体験できるため、職場の雰囲気や肌で感じる事ができ、将来自分が働いている姿をより鮮明にイメージすることができます。また、アクティブ・レンジャーに挑戦できるチャンスがあれば、是非チャレンジしていただきたいです。インターンシップよりもはるかに多くの学びを得ることができます。(インターンシップ以上に職員としての責任感を持って業務に臨みましょう。)私の場合は、アクティブ・レンジャーを経験する前は、レンジャーの業務は、自然や生物と関わる事が多いと思っていましたが、実際に勤務してみると、様々な立場・コミュニティの人々と関わる事が多く、そこに意外性を感じました。一方で、そういったコミュニティに入っていくことに対して、抵抗感が少なく、人の話を聞く事が好きなので、自分に向いていると思うと同時に、実際にレンジャーとして勤務している姿をイメージすることができ、レンジャーを志すモチベーションが向上しました。他にも現場業務とデスクワークの比率やワークライフバランスなどを確かめることもできると思います。(勤務地で差異があります。)

社会人受験者が少ないこともあり、社会人受験者目線で書いた部分もあり、とても長い文章になってしまいましたが、最後までお読みいただきありがとうございました。

試験勉強をしているとき、「時間が足りない」「合格できないのではないか」「採用されないのではないか」と何度も心が折れそうになりました。おそらく、研究やアルバイトが忙しい学生の皆様、社会人で受験を考えている皆様は、私と同様かそれ以上に何度も心が折れそうになると思います。ですが、心が折れそうになるということは、それだけ真剣に向き合っている証・熱意の証だと思います。しかし、採用までの道のりがより果てしなく感じ、目の前の壁が分厚く鮮明に見えるのは、

皆様が成長し着実に合格へ向かっている証だと思います。不安に押しつぶされそうになった時は、自分が使ってきたノートやペンのインクの消費量など、過去の自分が歩んできた道のりを振り返りましょう。そして、実際に出会ったレンジャーの方との交流を思い出しましょう。きっとその経験が自分を奮い立たせてくれるはずです。あとは、目の前の過去問・参考書を読みふけりましょう。いくら準備をしても、本番になれば緊張すると思うので、今できることだけに目を向けて時間を有効に使うことだけを考え、最後まで諦めないで下さい。

皆様のご健闘を心からお祈りしています。

内定者 E

☆プロフィール

【最終学歴】大学院修了見込み

【学年】修士課程 2 年

【併願先】地方上級・環境コンサル

【参加した説明会・回数】Web 説明会・8 回ほど、座談会 1 回、霞が関 OPEN ゼミ

【試験区分】農学

☆志望動機

私は幼少の頃から川遊びや虫取りなど自然の中で過ごすことが大好きで、漠然と将来は自然環境や野生生物などに関わる仕事に就きたいと考えていました。

大学時代に国立公園を訪問し、レンジャーという職を知り、大学院時代にインターンを行う中で実際のレンジャーの職務を経験したこと、修士研究の調査に参加したことで、地域住民の方々、研究機関の方々、行政の方々、他の大学の教授や学生など様々な立場の人たちが協力することの重要性を学びました。その学びや自分の経験したことを活かしつつ、人と自然が共生できる社会を目指して、様々な方と信頼関係を築きながら環境保全を行いたいと思い、環境省自然系を志望しました。

☆内定者体験記

【勉強方法】

● 基礎能力試験

過去問を数回解いてみたところ、点数がそこまで悪くなかったので、専門試験と面接対策に時間をかけました。試験 2 ヶ月前から毎週、出題傾向や時間配分を掴むために過去問、模試等を本番と同じ時間に解くようにしました。

● 専門試験

過去問を解き、全く分からなかったので、参考書を見ながら一問一問丁寧に解くようにしました。問題集を 2、3 周すると過去問でもある程度対応できる知識が身についたので、以降過去問を解いてわからないものを問題集やインターネット等で調べました。

記述試験は特に対策はしませんでした。時間内に書ききれるか不安だったので自分の書くスピードは把握しておきました。

私は基礎能力試験も専門試験も他の公務員試験(地方上級)の過去問などを解くことで対策に繋がったと思います。

【官庁訪問】

訪問者カードは家族、先輩や友人など多くの方に見ていただき添削や感想をいただき推敲しま

した。面接は訪問者カードに沿って進むのでカードの準備が重要だと思います。大学のキャリアセンターや他の企業などで経験を積みましたが、本番は緊張してあまり手応えを感じられませんでした。ただ面接中は自分がレンジャーとして行いたい仕事について、自分らしさを最後まで忘れずに話すように心がけました。

【内定までの過ごし方、心掛けたこと】

環境省を志望するようになってから、旅行などで国立公園を訪問する際は利用者に対する工夫(林道の整備等)、景観への配慮などを意識するようになりました。ただ生物や自然が好きという視点では見えにくい、自然保護管理の面に気づくことができ、面接等に活かすことができたと思います。

面接終了後は内定の連絡が来るまでは不安でした。深く考えてしまわないように研究活動や旅行などに頻繁に行き、体を動かすことで気分をリフレッシュしていました。

☆アドバイス、メッセージ

実は2年前に官庁訪問が不合格で、今年度で内定をいただきました。振り返ると、具体的な業務内容や、レンジャーとして将来やりたいことなどが見えていなかったと思います。翌年インターンシップに参加し、職場での雰囲気(固有種の名前が飛び交っていたり、通話の情報のみで種同定していたり)を肌で感じ、レンジャーの仕事の解像度が上がりました。色々と学べることが多いので、インターンに行くことをおすすめします。

就活は、いろんな状況で、将来に不安を持ちながら行う人が多いと思います。私自身の不安を軽減してくれたのは、家族、友人、知人等でした。本当に感謝しています。ぜひ色々な人と話してみてください。その人の価値観や考え方で自身の思考の幅が広がると思います。そして出会った様々な方は今後一生の付き合いになるかもしれません。一つ一つの出会いを大切にしてください。

最後まで読んでいただきありがとうございました。今後レンジャーを目指す方にとっても、そうでない方にとっても少しでも役に立つものとなれば幸いです。

内定者 F

☆プロフィール

【最終学歴】大学卒業見込み

【学年】学部 4 年

【併願先】なし

【参加した説明会・回数】自然系採用説明会(web)、座談会、学内説明会等・10 回程度

【試験区分】農業農村工学

☆志望動機

国立公園での様々な整備を通じて、私を魅了してくれた国立公園と人々を繋ぎ、未来へ残していきたいと考えたためです。

私は幼少期より趣味の登山やキャンプなどの自然体験を通じて、国立公園を含む自然の美しい景観がとても好きでした。大学三年生の時には、大雪山国立公園内でのインターンシップに参加し、登山道や携帯トイレブスの整備に関わり、国立公園の“雰囲気づくり”の一助になれたことが自分の中で大きな達成感に繋がりました。また、そこには今も昔も人々の暮らしがあり、自然とともに生きる中で人々が紡いできた文化、伝統、自然への愛情も尊いと感じるようになりました。

このような体験から、ビジターセンターや登山道などの整備により国立公園をより魅力的にし、未来へ継承したいと考え環境省を志望いたしました。

☆内定者体験記

【勉強方法】

● 基礎能力試験

私が基礎能力試験の勉強を始めたのは 3 年生冬頃でした。ダラダラと身の入らない勉強をしていたため、あまり良いアドバイスはできませんが、初歩的なことを言わせていただくと“科目を絞る”ことは重要です。私は数的処理(数的推理、判断推理、資料解釈)を中心に勉強を行い、時事と文章理解を含めた 3 分野を得点源として考えておりました。数的処理は適当な参考書を使い問題演習を繰り返し、時事は YouTube で対策動画を見ていました。文章理解はかなり易しいので、過去問を軽くさらう程度でした。

● 専門試験(多岐選択試験、記述試験)

・多岐選択試験

暗記系に関しては過去問を中心に農業農村工学必携、食料・農業・農村白書を併用しながら対策しました。

三力(構造力学、水理学、土質力学)も過去問を中心に、土木工学の参考書を用いて対策をしました。計算問題は全体の 3 割程度ですが、暗記科目に比べ対策しやすいので、得点源として確

実に取りれるようにしておくといと思います。

専門試験も範囲が広いので、ある程度は分野を取捨選択しながら行うといいです。

・記述試験

私は記述の試験日を勘違いしていたため、まともな対策をせず挑むことになりました。絶対にお勧めできません。しかし、ぶっつけ本番でもある程度書けた理由としては、日常の積み重ねがあったからだと思います。過去の記述テーマについてはある程度把握し、問題の背景や対策、自分の考えも頭の片隅にありました。新聞や白書を読むときも、農業農村工学分野の話題に関してはアンテナを張って目を通すようにしていました。

したがって、日常的に農業農村工学分野の動向やトレンドを把握し、頭の中で小論文にした時の構成を考えておくだけでも、対策になるかと思います。実際に書いて他の人に添削してもらおうと、なお良いです。

【官庁訪問】

環境省やレンジャーへの理解は、雑誌『国立公園』を読むことや、説明会に何度も参加することで深めていきました。面接対策は主に大学のキャリアセンターで練習し、自分の挙動や発言の見られ方を確認していました。教授や仲間に自分の考えを聞いてもらったことも、考えを醸成するうえで非常に大切でした。

実際の官庁訪問では終始和やかな雰囲気だったため、緊張しながらも、割とリラックスして自分の思いを話すことができました。

限界まで対策したらば、あとは笑顔とパッションです！

【内定までの過ごし方、心掛けたこと】

試験勉強の息抜きとして、様々なメディアから国立公園や自然環境行政に関する情報収集をしていました。調べているだけでもワクワクしてくるので、理解度を高めるうえでも良い息抜き兼対策になりました。

学部 3 年生の夏休みを利用して国立公園内のインターンシップに参加したことも、非常にいい経験でした。国立公園の魅力や課題を肌で感じ、国立公園での業務の解像度も大きく変わったので、とってもオススメです。

☆アドバイス、メッセージ

筆記試験の対策も重要ですが、満点を目指す必要はありません。個人的には筆記試験対策もそこそこに官庁訪問の対策を進めてみてほしいと思います。農業農村工学区分の人は農林水産省や国土交通省に行く人が多いので、環境省に行く人は稀だと思います。しかし、他のどこでもなく環境省のレンジャーになりたい！という気持ちが大事です。その気持ちに why を投げかけ続け、自分の考えをより強固なものにしてください。そして笑顔とパッションです！

内定者 G

☆プロフィール

- 【最終学歴】大学院修了見込み 【学年】修士課程 2 年
【併願先】独立行政法人、民間企業(アウトドアブランド)
【参加した説明会・回数】自然系 Web 説明会、Web 座談会、官庁合同業務説明会、・計 2 回
【試験区分】林学

☆志望動機

私は幼少期から自然の中で遊ぶことが好きで、大きくなったら自然と関わる仕事に就きたいと漠然と考えていました。そんな中高校の進路を選択する際、“農学部に入ったらどんな職業につけるのだろう”と調べていた矢先に“レンジャー”という仕事を知り、「自然を保護するために働くという言葉がかっこいい！」と思い目指そうと思うようになりました。

ただ大学に進学し、国立公園の自然やそれに関わる人々に対して様々な関わり方(観光や登山、山小屋アルバイト、絶滅危惧種の保護観察、学術調査、環境省インターンシップ等々)をしていく中で、自然環境は“保護”するだけではなく、人間からの適切な“利用”の面を考えることこそが最適な自然との関わり方であると考えようになりました。そんな中、自分の目指したレンジャーたちも自然環境に対し保護と利用の両立を目指していると知り、一員として働きたいと強く思うようになりました。

☆内定者体験記

【勉強方法】

● 基礎能力試験

国家公務員一般試験の半年前くらいに大学の生協が行っている公務員講座のテキストを公務員受験の経験のある先輩から入手し、数的推理と判断推理に絞って時間に余裕のある時に勉強するようにしていました。試験本番 2 週間前から過去問を解き、答え合わせと復習を行いました。

● 専門試験(多肢選択試験・記述試験)

過去問を約 3 年分解き、回答の正誤にかかわらず“なぜこれは正解でなぜこれは間違いなのか”について“森林・林業白書”と“森林・林業実務必携”を参考にノートにまとめていました。過去問は何年かやると出題傾向がわかるので集めることをお勧めします。

記述試験に関しても過去問を見ると傾向があるように感じました。過去問に対して自分なりの回答を作っていました。

【官庁訪問】

面接は特に何もありませんでした。ただ民間企業や独立行政法人などの併願先での面接の機会があったので、それのおかげもあってか話すことに苦勞はしませんでした。ただ“訪問者カード”で記入したことに自分の今まで行ってきたことや考えてきたことについて矛盾がないか、想いに嘘偽りがないか等について熟考し、面接官の方と普段通りの“コミュニケーション”ができるまで自分の考え方を生活に落とし込むようにしました。また文章に関しては友人や先生方に添削をお願いしていました。

【内定までの過ごし方、心掛けたこと】

勉強ももちろん大切ですが、「この経験は将来自然と関わるうえで逃してはいけない機会だ！」と思うような機会、勉強を二の次にしても赴くような心がけました(決してむやみやたらに遊びまわったりしたわけではありませんからね！(笑))。お陰様で自然保護の立場と自然を利用する立場両方の人々と関わる事が出来ました。この経験が間違いなく面接に生きていと実感していますし、外に出ることは息抜きにもつながりました。

☆アドバイス、メッセージ

今思うと就職活動は不安や焦りの連続だったように思います。ただ“自分のやりたいこと”、“人生において絶対必要だと直感的に思うこと”を蔑ろにしなかったことが最終的には功を奏したと思っています。

一度自分は就活の心配ばかりして目の前の大切な機会をあやうく無駄にしまいそうな経験がありました。そこには“勉強しなきゃな、時間がないや”と半ばあきらめと言いつつしようとした自分がいたように思います。でも、蓋を開けてみれば環境省に入るうえで必要不可欠な体験であったと今振り返ると思うようなものでした。勉強するときは勉強する、体験するときは体験する、しっかりと切り替えて目の前のことに全力で取り組むことが大事であると感じました。

ぜひ皆さんにも後悔のないような就職活動ができることをお祈り申し上げます。そしてもし皆さんの人生を通してやりたいことが環境省で叶うと感じたときは、ぜひ試験勉強や面接対策を頑張ってください！皆さんとお会いできることを心より楽しみにしております。

内定者 H

☆プロフィール

【最終学歴】大学院修了見込み

【学年】博士課程4年

【併願先】なし

【参加した説明会・回数】自然系 WEB 説明会（複数回）

【試験区分】林学

☆志望動機

元々自然や生き物が好きで、特に人為的な生態系への影響や環境問題に大きな関心を持っていました。大学で野生動物の研究に携わる中で、地域の人々の声を直接聞く機会などを持つうちに、これらの問題に対して、実際に解決に向けて実行力を持って関われる立場になりたいという考えが強くなりました。環境省の国立公園におけるレンジャーの仕事は、まさに生態系保全に関わる現地の問題に各関係者と調整しながら主体的に取り組み、また自然の重要性を国民に発信していけるやりがいのある仕事ではないかと感じ、環境省を志望しました。

☆内定者体験記

【勉強方法】

● 基礎能力試験

あまり勉強に割ける時間がなかったので、取り寄せた過去問を数年分通して解き、出題傾向と時間配分の感覚を掴むようにしました。社会分野などは久しぶりの内容かつ範囲も広がったので勉強に時間をかけることはせず、暗記の必要がない文章理解、数的推理と判断推理、専門である自然科学分野で点数を取れるように組み立てました。

● 専門試験

・多肢選択試験

林学は全くの初心者だったので、まず最新の林学白書を一通り読み込んだあと、過去問を中心に勉強しました。過去問を解き、すべての設問の選択肢に対して、正解または不正解の根拠を白書の中またはインターネットで探し、その周辺情報も確認する、という作業を反復しました。点数が安定するまで数年分繰り返し行いました。

・記述試験

記述試験の対策は全く行っておらず本番は時間配分に苦労したので、指定の文字数で文章に書き起こしてみる作業を練習しておいた方が良かったと思います。

【官庁訪問】

これまで自分が経験してきたことを見つめ直し、アピールポイントだけでなく、これまでやってきた研究活動と環境省で求められる仕事との齟齬を洗い出すようにしました。志望動機など必ず求められる質問に関しては、一度文章で書き起こすことで思考の整理をしておいたのが良かったと思います。体験記などでは博士課程学生のものほとんどなく面接内容のイメージがあまり掴めませんでした。実際行って見た感覚として、素直に面接官との対話できれば大丈夫だと感じました。

【内定までの過ごし方、心掛けたこと】

大学が忙しかったため、勉強や面接準備などは短期集中で行いましたが、自分にとってはメリハリができて良かったと思います。

☆アドバイス、メッセージ

自分は一般職の新卒採用としては比較的年齢が高い方だと思いますが、何を仕事として本当にやりたいのか、自分を見つめ直すのに遅いも早いもないと思っています。夢が見えたらぜひそのビジョンに向かって突き進んでください。まだ入省前ですが、環境省は様々な背景の人がいてとても懐が深い場所だと感じます。心よりご健闘をお祈りしております。

内定者 I

☆プロフィール

【最終学歴】大学院修了見込み

【学年】修士 2 年

【併願先】民間企業

【参加した説明会・回数】自然系業務説明会(WEB):2 回

【試験区分】林学

☆志望動機

父の影響で幼少期から自然の中で過ごすことが好きで、幼少期からパークレンジャーに憧れがあったことが最初のきっかけです。加えて大学の研究活動を通しての経験や、多様なフィールドで多くの動植物に関われること、地域の人々と共に自然環境保全に貢献できる仕事であることが決め手となり志望しました。

☆内定者体験記

【勉強方法】

● 基礎能力試験

専門試験よりも配点の比率が低いためそれほど重要視しておらず、点数が取りやすそうな数的処理と判断推理に絞って勉強しました。研究室に大学生協の公務員講座のテキストがあったのでそれを使い、わからないものは解説を読んでそれぞれの問題の解き方を覚えるようにしました。

● 専門試験(多肢選択試験・記述試験)

・多肢選択試験

最初にどのような問題があるのかを把握するために、選択科目として分野ごとに出題が分かれている総合職の森林・自然環境の過去問を解きました。その中から点数を取りやすそうな分野を絞って過去問を解きました。解き終わったら森林・林業白書と実務必携を使って解説を書き込んだり、専門用語は用語集として一冊にまとめたりしました。

・記述試験

特に対策はしていませんでした。森林・林業白書を読み込み、現在の課題に対する自分の意見を持つことが一番の対策だと思います。ただ、日頃から文章を書くことに慣れていない人は文章を書く練習をしておいた方が良いでしょう。

【官庁訪問】

民間企業を併願していたので面接にはある程度慣れており、特に対策はしていませんでしたが、聞かれたことを素直に正直に答えることは心掛けていました。どうしてレンジャーになりたいのか、

これまでの経験や考えを踏まえて熱意を率直に伝えることが一番だと思います。緊張すると早口になったり、考えがまとまらなくなったりするので場慣れは必要かと思います。それと、訪問者カードをもとに面接が進んでいくので、準備は早めに始めておくのが良いと思います。

【内定までの過ごし方、心掛けたこと】

民間企業の就活や研究も並行して行っていたため毎日やるべきことを必死にやる、という感じでした。正直、最初はどんな職に就きたいのか絞り切れず、たくさん候補がある中の一つの職業としてレンジャーを考えていました。しかし、就活が進み様々な職業や企業、社会の仕組みを知っていく中で、将来の自分の理想像に近づける職はレンジャーではないかと感じ、情報収集をしつつどんなレンジャーになりたいかを考えて過ごしていました。

☆アドバイス、メッセージ

これまで立派そうに勉強の方法やアドバイスを書いてきたのですが、実は研究と民間企業の就活を言い訳に、本格的な試験勉強を始めたのは一次試験の 2 週間前です。とにかく点数が取れそうなものだけに勉強を絞り、足切りだけは避けられるようにしました。一次試験の結果は誰にも言えないような点数で、二次試験の面接にかけ、官庁訪問も準備がギリギリになってしまい初日に予約を取れなかったほどです。それでも内定を頂けました。今思えば、試験直前の勉強になってもあきらめなかったことと、一次試験の自己採点結果を見て絶望していても、合格と分かった瞬間に勢いで準備をし、官庁訪問の予約をしたことが今に繋がっていると思います。また多くの職を選択肢に入れ就活していたからこそ、レンジャーという職業についてより考え、思いを言語化することができましたし、絶望的な状況の中でもモチベーションにもなりました。

もしも試験まで時間がなくて焦っている方がいれば、まずは最後まであきらめず点数が取れそうな分野を伸ばしてください。一次試験が終わり、手ごたえを感じていなくても可能性は 0 ではありません。官庁訪問や二次面接の準備をしつつ、どんなレンジャーになりたいのか、未来の自分を想像し自信をもって本番に臨んでください！

私のようにギリギリにならないよう、他の内定者の皆さんの経験を参考にし、頑張ってください。孤独を感じたり、焦ったり不安になったりするかもしれませんが、全国には同じ志を持った仲間がいます。最後まであきらめずやり切ってください！心から応援しています！

内定者 J

☆プロフィール

- 【最終学歴】大卒・国家一般職(他省庁) 【学年】既卒
【併願先】なし
【参加した説明会・回数】Web 説明会 7回・Web 座談会 1回
【試験区分】林学

☆志望動機

レンジャーとして絶滅危惧種の保全に携わりたいと考え、環境省を志望しました。既に社会人ですが、学生時代にトキの野生復帰について学ぶ機会があり、それをきっかけに絶滅危惧種の保全に関心を持つようになりました。それから関連する本を読み漁り、NPO の環境保全活動に参加しました。これらの経験から、異なる立場の人々と協力しながら落としどころを見つけ、それを次世代へ繋げていくことが重要だと感じ、その一助になりたいと思いました。

卒業後は畑違いなところへ就職しましたが、社会人になってからも手に取る本は環境関連で、気付けば週末は環境保全ボランティアに参加しています。

一度きりの人生、兼ねてより興味があったレンジャーにチャレンジしようと思い、この度志望しました。

☆内定者体験記

【勉強方法】

● 基礎能力試験

働きながらの受験のため、平日はほとんど時間を確保できませんでした。休日にまとまった時間を確保し、基礎能力試験過去問(人事院)を使い、判断推理・数的推理を中心に学習していました。

● 専門試験(多肢選択試験・記述試験)

基礎能力試験と同様、休日にまとめて学習していました。

林学試験過去問(人事院)を5年分解いてみて、間違えた問題をノートにまとめました。森林・林業白書(林野庁)等を参考に、なぜ間違いなのかを理解して、正しい知識を定着させるようにしました。

【官庁訪問】

面接カードや訪問者カードの内容から、話したい内容を整理しました。社会人として何度か面接を経験しているので、ある程度落ち着いて臨むことができました。

【内定までの過ごし方、心掛けたこと】

集中できないときは、映画を見たり、家族や友人と話したりして気分転換していました。

また、スケジュール管理の徹底を心がけました。働きながらの受験なので、対策のために勉強時間を確保するのはもちろんですが、そもそも試験日に休暇を取得できなければ試験を受けることができません。筆記試験は日曜日ですが、二次面接・官庁訪問は平日なので、前もって休暇を取得できるよう仕事の段取りに配慮しました。

☆アドバイス、メッセージ

文系出身であり、働きながらの受験ということで珍しいケースかと思います。試験の情報収集や試験対策は孤独でつらい時期もありましたが、レンジャーとして働きたいというモチベーションと周囲の応援があつて最後まであきらめずに続けることができました。

試験は長丁場です。適度に息抜きしつつ、体調に気を付けながら、最後まであきらめずに頑張ってください。応援しています！

内定者 K

☆プロフィール

【最終学歴】大学院修了見込み

【学年】修士 2 回生

【併願先】地方整備局

【参加した説明会・回数】自然系 WEB 説明会(2 回)、JOB トーク(1 回)

【試験区分】林学

☆志望動機

小さい頃から生き物への興味が大きく、大学では野生動物の保全・管理について学び、研究をしていました。その中で自然環境を保全していくためにはその自然に関わる多くの人々の理解と助力が必要であることを知りました。そしてその先頭に立ち、野生動物の保護管理や国立公園の運営、生物多様性保全に関わる施策の立案など様々な観点から自然と人をつないでいくレンジャーの仕事に魅力を感じ、志望するに至りました。

☆内定者体験記

【勉強方法】

● 基礎能力試験

前年度の試験問題に目を通し、ある程度解けると踏んでいたのもので特に対策は行いませんでした。時事問題対策には『速攻の時事』を通学途中などの隙間時間に読んでいました。

● 専門試験(多岐選択試験・記述試験)

林学は大学ではほとんど学んだことがなかったので、独学での勉強となりました。実務必携が知識問題の大部分を占めますが、膨大な量ですので、過去問の出題範囲を参考にある程度割り切って分野の取捨選択をしました。

まずは林業白書と実務必携によく目を通し、大まかな知識を身に着けることから始めました。特に林業白書は何周も熟読し、話題のトピックを頭に入れるようにしました。

多岐選択試験は過去問を解き、不正解の選択肢のどこが間違っているかを林業白書や実務必携、インターネット上の資料などを使って細かい数字まで徹底的に調べ、まとめていました。総合職試験も受験していたこともあり、一般職試験の勉強に費やす時間が少なかったため、直近 2、3 年分の過去問を突き詰めて対策を行いました。

記述試験は過去 5 年分ほどの試験問題から傾向をつかみ、主に林業白書を参考に出題が予想される議題の要点を整理し、自身の考え方も含め要領よくまとめることができるように記述の練習をしていました。

【官庁訪問】

就職活動をするにあたって面接の練習などは特に行っていなかったのですが、他省庁を含め総合職で官庁訪問を一度経験していたのであまり緊張せずに面接に臨むことができました。私は主に研究活動のなかで野生動物の保全や外来種管理に関わる機会を持っていたので、その際の具体的なエピソードや自身の考えを交えてレンジャーへの志望動機を伝えることを意識していました。

【内定までの過ごし方、心掛けたこと】

就職活動をするにあたって、現在志望先の企業・官公庁で行われている具体的な取り組みを知ることが大切なことです。そのうえでその取り組みに対する自身の賛否や見解を持つことを心掛けていました。自分の意見を持って面接に臨むことで、より建設的な議論に繋がることや、実際に事業に取り組んでおられる方の本音を垣間見ることができ、志望先へのより良い理解につながると思います。

☆アドバイス、メッセージ

環境省を志望するにあたって、皆さんが一番身構えていることは官庁訪問ではないかなと思います。内定者の方の中には環境省一般職一本で勝負している方もいらっしゃる、それも筋の通った一つの方法だと思います。ですが、私からは総合職も含めた他省庁の官庁訪問にもぜひ参加することをおすすめいたします。官庁訪問はやはり独特の空気感があり、場数を踏むことで気持ちが楽になる部分もあります。また、省庁が変われば雰囲気や考え方も異なり、自身の訪問者カードへの様々な角度からのご指摘やご助言をいただく機会を得ることができ、また他省庁から見た環境省へのイメージなども知ることができます。私はそれらの経験を通じて環境省への志望動機をより強く明確に持つことができました。人生のなかで幾度か、または一度きりの就職活動は、思い悩むことや考えさせられることも多いかと思います。最後まであきらめず悔いのないよう全力を出し切っていただければと思います。

内定者 L

☆プロフィール

【最終学歴】大学卒見込み

【学年】学部 4 年生

【併願先】無し

【参加した説明会・回数】霞が関 OPEN ゼミ・説明会・OB 訪問 10 回以上

【試験区分】林学

☆志望動機

私は国立公園を 24 箇所訪れ、日本の自然を満喫してきました。この素晴らしい場所を多くの人に提供できる仕事がしたいと考えたのがキッカケです。一方、趣味の無人島探検ではゴミ放置や火の不始末で荒らされ、自然の良さが消えかけていることを目の当たりにしました。自然を楽しむためには利用と保護の両立が求められることを理解し、まさに環境省レンジャーの仕事だと思いました。

さらに、国立公園の美しい景観や体験に感動してもらうことで環境問題について知ってもらい、人々の潜在意識を変え、環境に優しい社会ができるのではないかと考えたからです。

☆内定者体験記

【勉強方法】

● 基礎能力試験

基礎能力試験の対策は大学 4 年生になってからでした。最初に過去 5 年分の試験を解いて試験の傾向を把握しました。林学では基礎能力試験の配点割合は 2/9(年によって変更がありますので、受験年度の配点割合は人事院の HP で確認するようにしてください)でしたので、問題数に対しての比重は小さいと考えていました。対策を行ったものは問題数の多い現代文、英語、判断推理、数的推理です。参考書を 1 周すれば慣れてきました。社会系は問題数が少なく時間が無かったので本番勝負で挑みました。

● 専門試験

私は大学で生物学を専攻していたので、どの専門試験を受けるか迷っていましたが、例年林学は比較的暗記が多いと過去の内定者の声を参考にして、林学を一から勉強しました。まず、森林・林業白書を一読して、過去問数年分を解きました。森林・林業白書に回答根拠が無い場合のみ森林・林業実務必携で回答根拠を探しました。そこにもない問題は諦めるようにしました(他の参考書などを調べるのは時間がかかるため)。過去問の間違いや回答根拠となるところとその周辺知識をほぼ全て暗記しました。また、森林・林業白書は例年と変更のあるところが出やすいので過去のものと比較しながら読むことをお勧めします。記述試験は選択試験を理解できればそこまで対

策は必要がないと聞いていたので、過去問を眺めるだけにしました。

【官庁訪問】

私は人事院の試験に自信があったので、官庁訪問が一番の難問でした。面接は自信がなかったので、大学のキャリアセンターで10回以上、春から練習しました。ある程度練習すると、頭の中で整理して話せるようになってきました。慣れてくると官庁訪問で聞かれそうな想定集を作成することができてきました。6月くらいには訪問者カードを書き上げ、その後ほとんど毎日訪問者カードを見直して伝わりやすい言葉遣いを意識しました。

【内定までの過ごし方、こころがけたこと】

私は入学当初にコロナ禍のため、人に会えず、部活もできず、ただ家でオンライン学習の日々が続いていました(気づけば卒業までの単位があと少しになっていました)。少し規制が緩くなった頃、今までの反動で人の少ない自然いっぱいに行きたいという衝動に駆られ、偶然、国立公園スタンプラリーのアプリがあることを知り、これをきっかけに国立公園巡りをはじめました。国立公園巡りを通して日本の自然が素晴らしいことを知り、レンジャーが管理していることを知りました。国立公園を訪れ、環境省の仕事を知れば知るほどレンジャーになりたいと思い、環境省一本で挑みました。内定が貰えない場合は院進学を予定していました。

☆アドバイス、メッセージ

コロナの影響もあり、就職活動は大変だと思います。本当にしたいこと、待遇、勤務地など色々考慮するべきことがあると思います。色々なことを考えれば考えるほど、分からなくなってくると思います。そういう時は一旦休んでも大丈夫だと思います。リラックスした状態の方が良い答えが見つかります。また、周りの人の意見を大切にしてください。周りの人ほど冷静な人はいません。

ここで、私個人が考える面接の極意をお伝えします。準備・熱意・適性(マッチング)の3点です。環境省自然系の面接は話しやすい・会話のような雰囲気と言われますが、友達同士の会話ではありません。訪問者カードをもとに質問されますが、「この話の何を伝えようか、時間がないからこの部分は絶対伝えたい」など時間が短いので戦略的に話しましょう。そのためには準備して、頭の中を整理する必要があります。次に、熱意です。これは志望動機や将来したいこと(いわゆるビジョン)、環境省についていくら知っている(面接官も嬉しいですよ)かがポイントです。志望動機は大袈裟である必要はありません。自分の思いを伝えるだけです。最後に、適性です。これだけはどうしてもないかも知れませんが、準備と熱意は誰でもできることです。ここまで準備と書いてきましたが、予定より本省に着くのが遅くなり、帰りの飛行機に乗り遅れた人間です。言い訳をすると、電車が故障で遅延かつ朝のラッシュ時で電車に入りきらず、また、乗り換えで迷子になり羽田空港でなく成田空港に向かってしまいました。東京の電車には注意してください。必ず時間に余裕をもって、行動してください。

最後になりましたが読者の皆様、それぞれ希望の進路に進めるようお祈りするとともに、環境省でお会いできることを楽しみにしております。

内定者 M

☆プロフィール

【最終学歴】大学院修了見込み

【学年】修士 2 年

【併願先】国家公務員総合職、独立行政法人

【参加した説明会・回数】OB 訪問・2 回

環境省 JOB トーク(事務系・理工系含め)・9 回

レンジャー説明会(WEB・対面含め)・17 回

インターンシップ(本省・自然保護官事務所)・2 回

【試験区分】林学

☆志望動機

自然環境の保護や、国立公園の適切な利用推進を通じて、野生生物と人間が共存できる社会づくりに貢献したいと考えたからです。

大学時代、国際サンゴ礁年の取り組みに参加したことがきっかけで、環境省に興味を持ち、インターンシップや説明会に参加しました。レンジャーの方の話を伺う中で、人間も自然環境の一部であり、多様な人を「調整し、連携し、動かすこと」が共存する上で重要だと考えました。石垣島のインターンでは、カンムリワシのロードキル、サンゴ礁の踏みつけを目の当たりにし、野生生物の問題が人間活動と密接に関わっていることを実感しました。

そこで、現場の最前線で多様な人と話し合い、あらゆる主体と繋がることで、状況に合った効果的な事業の推進や、行動計画の提案等に携わりたいと考え、一般職のレンジャーを志望しました。

☆内定者体験記

【勉強方法】

予備校は利用せず、参考書や過去問を用いて独学で行いました。私は大学で海洋分野を学んでおり、林学の専門知識がなかった為、ほとんどゼロからのスタートでした。そのため、修士 1 年の時、練習で国家公務員試験を受験しました。

● 筆記試験について

合格できれば良いので、満点をとろうとせず、効率よく行うことが重要だと思います。特に、試験の大半を占める数的処理と専門科目に勉強時間を割いていました。1 次の基礎能力試験の時間はギリギリなので、時間を計って練習することや、事前に科目ごとの時間配分を決めておくことをお勧めします。

林学の専門科目(1 次の選択、2 次の記述)は、人事院から取り寄せた過去問を解いて地道に対策しました。分からなかった部分は、関係省庁のホームページや、白書を用いて調べながら自

分なりの解答を考えて、メモして、読み返しました。

- 人事院面接について

大学のキャリア支援を利用して対策しました。模擬練習をしておく、自分がどこでつまずきやすいかが明確になる為、やっておいてよかったです。面接時に留意したのは、笑顔と結論ファーストです。質問された内容に対して、簡潔に伝えるように心掛けていました。

面接カードは、①自分が最も伝えたいテーマを決めて、一貫性があるように意識し、②面接官に質問されることを想定しながら書く内容を決めました。そして、自分一人で作りこまず、第三者に見てもらった方が、初見の人に伝わる文章が作りやすいので良いと思います。私の場合、既に就活経験がある高校時代の友人や、大学の就活アドバイザーなどに添削をお願いしていました。

作成した面接カードをもとに、面接官がしそうな質問を予想しました。予想質問に対する回答の概要をまとめておき、自主練していました。回答を一言一句暗記しない方が、セリフ飛びへの不安がないため、緊張せずに自分らしさを表現できると思います。

面接対策は官庁訪問も含め、意外と時間がかかったので、余裕をもって準備すると安心です。

【官庁訪問】

環境省の官庁訪問は、わかりやすく言うと、「実際に働いている職員と訪問者カードをもとに会話する」というものです。雰囲気は柔らかく、時折、笑いがあるような会話です。自分が環境省をなぜ志望するのか、入省後何をしたいのかを、簡潔に、相手に伝わるように準備すると良いと思います。ミスマッチを互いに防ぐために行う面接だと思っているので、説明会やOB訪問等で実際に働く職員の話を聞いておくと、自分が入省後に働くイメージができ、対策しやすいと思います。具体的な対策については、上記の「勉強方法・人事院面接について」で書いた対策とほとんど変わりません。

【内定までの過ごし方、心掛けたこと】

私は、海外留学へ修士1年の秋から春(3月)まで行っていたため、就活直前の時間があまり無い状況でした。そのため、1年前に国家公務員試験を受験しておいたことや、学部生時代から説明会、インターン等に参加していたことは心の余裕に繋がったと思います。留学中は、現地でできない学びや体験を楽しむことを優先にし、隙間時間を見つけては、研究室やカフェ、寮などでコツコツ試験勉強しました。一般的に就活が盛んな時期に海外に行っていたこともあり、エントリーが早い企業は難しく、独立行政法人と国家公務員のみ絞って就活をしていました。

学生生活、就活ともに妥協をしたくはなかった為、何事も機会があれば挑戦し、積極的に取り組むように心掛けていました。全て落ちたら、ギャップイヤーをとって世界旅行しよう！という前向きな思考でいました。

☆アドバイス、メッセージ

現在、就活に関する情報が世の中にはあふれかえっています。不安から、情報を取り込みたくなる気持ちはよく分かります。他人の情報を参考にすることは時に大切なことですが、あくまで他人の経験や考えであり、絶対に正しいという保証はありません。「他人の情報を鵜呑みにしないこと」

を頭の片隅に置いて、冷静に、自分に合った方法で取り組むのがベストだと思います。

就活中は、進路に迷うことや、自分の思い通りにいかないこともあると思いますが、挑戦しない限り道は開けないので、この機会に挑戦してみてください。やらないで後悔するのは最も悔しいことだと思うからです。

支えてくれた周囲の人への感謝の気持ちを忘れずに、頑張ってください！応援しています！

ていました。

☆アドバイス、メッセージ

国家総合職試験は国家一般職試験の前にあります。総合職での筆記試験や官庁訪問を経験していた関係で一般職試験では試験当日のイメージが持ちやすく、あまり緊張せずに臨めました。合否はともかく、一般職試験を受ける方は総合職試験を受けておくと試験のイメージが持ちやすく、一般職試験当日に変に緊張することがなくなると思います。

官庁訪問対策として面接練習をほとんど行わなかったことは少し後悔しています。他人に聞いてもらうことで自分では思いつかなかった質問や改善点が出てくるので、複数人から面接練習をしてもらうとよいと思います。

皆さんのご健闘をお祈りしています！

【官庁訪問】

公務員試験対策講座が実施している面接練習に複数回参加して、当日話す内容を整理していききました。また、環境省が行なっている政策や業務について、環境省の HP を参照したり、いただいたパンフレットなどから内容を確認したりしていました。

【内定までの過ごし方、心掛けたこと】

実際に、レンジャーの方にお会いしてお話を伺う機会を設けていただき、さまざまな情報を知っていく中で、環境省の職員を志望するという決意を固めていきました。

自分が本当に何をしたいのか、何をを目指しているのか、見つめ直すことで、内定まで気持ちを保ちつつ、それまでに何ができるかを考えていました。

☆アドバイス、メッセージ

内定までに行動して一番自分のためになったと感じたことは、実際のレンジャーの方にお話を伺う機会を作ったことです。お話を伺う前には知らなかったことも多く、またお一人お一人のエピソードを聞くことで、自分がレンジャーになった時の想像がしやすく、志望する気持ちも強まりました。なので、みなさんも職員の方にお会いする貴重な機会があればぜひ参加することをお勧めします。

面接練習も、最初は上手くいかないことが多かったのですが、慣れてくると聞かれた質問にすぐに答えることができるようになり、本番にもつながるため、何回も練習することが良いと思います。

そして私自身、内定者の声を拝見し、自分自身の試験勉強や官庁訪問の参考にしていたので、皆さんにとってもそのようなものになればと願っています。悔いの残らないよう、自分の将来のために頑張ってください。読んでくださり、ありがとうございました。

内定者 P

☆プロフィール

【最終学歴】大学卒業

【学年】既卒

【併願先】地方上級

【参加した説明会・回数】自然系 WEB 説明会・JOB トーク:計 7 回

【試験区分】林学

☆志望動機

私は、皆が自然の循環の中で暮らしている社会を作りたいと思い環境省を志望しました。環境問題についての興味関心は高校生の頃から持っていました。自然環境を守りたいと思った直接のきっかけは、大学生時代に一羽のウズラを飼育し始めたことでした。鳥類をきっかけに、都市にも野生動物が多く生息していることを知りましたが、同時に現在の生活のままではいつか身近な鳥類も消えてしまうのではないかと不安になりました。自然環境を保全するための知識を付けるため、専門学校に入学し、そこで国立公園という存在を知りました。自然環境の利用と保全の考えを持ち、また、人々の文化が育まれている地域も国立公園の区域内に含まれていることから、国立公園を通して自然と共生した暮らし方について多くの人に伝えていくことができると考え、環境省を志望しました。

☆内定者体験記

【勉強方法】

● 基礎能力試験

数的推理と判断推理を中心に対策をしました。基本は学校の公務員対策の講義で使用する問題を繰り返し、解き方を覚えました。また、過去問を使用して実際に時間を計りながら素早く問題を解いていく練習を行いました。文章理解(国語と英語)は全問正解を目指し、数的推理・判断推理・資料解析で 6 割以上を目指しました。

知識分野についてはほとんど対策をしていません。専門である生物分野に関しては落とさないように、日ごろの勉強を怠らないようにしていました。

● 専門試験

過去問を解きながら、出てきた分野を一つずつ対策していきました。その際、林学の教科書や森林・林業実務必携、白書、インターネットを使用してノートにまとめていきました。過去 3 年分くらいを解くと傾向が分かってくるので、よく出てくる分野を重点的に教科書や白書を見返して勉強しました。

記述試験については、最近の動向を把握するため白書を使用し、用語等は過去問を解きなが

ら調べていきました。

【官庁訪問】

官庁訪問の準備として、自分自身が自然を守りたいと思うようになったきっかけを理解するために、いつ、どこで、何を感じて、どのように選択してきたかを振り返りました。そこから、どのような未来を自分が描いているのかを明確にし、レンジャーの仕事と結びつけながら、言葉として相手に伝わるように整理しました。

当日は、自分の考えや想いを分かりやすく伝えることを意識して挑みました。

【内定までの過ごし方、心掛けたこと】

なぜレンジャーになりたいかを考えるとともに、自分自身がどのように自然環境と向き合っていたいかを考えながら過ごしていました。地域の自然保護団体に参加して、市民活動として自然とどのように向き合っていくのかを考えました。また、専門学校でのフィールドワークを通じて、生物に関する幅広い知識を自らの価値観で取捨選択をせず、吸収することを心掛けました。

☆アドバイス、メッセージ

私は、自然に関わる様々な仕事の中で、環境省のレンジャーとして働くことを選択しました。それが今の私にとって一番しっくりするものだったからです。日々勉強する中で、公務員である必要があるのか、他に選択肢があるのではないかなどの迷いや葛藤がありました。しかし、なぜ自然環境に関わりたいのか、どのように関わっていきたいのかを自問自答することで、私の意志が明確化されモチベーションを維持することができました。闇雲に勉強してレンジャーを目指すことよりも、気持ちを安定させ高めていくことが大切だと思うので、自分の目指す姿を忘れずに進んでください。

内定者 Q

☆プロフィール

- 【最終学歴】大学院修士課程修了見込 【学年】修士 2 年
【併願先】国家総合職、地方上級
【参加した説明会・回数】自然系業務説明会 WEB:2 回、対面:1 回
【試験区分】林学

☆志望動機

自然や生き物と身近に過ごす中で、人間と生き物の共存の難しさを痛感した経験が幾度かありました。豊かな自然を守るにはどうしたらいいのか、人と生き物の適切な関係性を築くために自分ができることは何かと考えた時、レンジャーの活動を知り、自然共生社会の実現を目指すべく環境省自然系職員を志望しました。

☆内定者体験記

【勉強方法】

● 基礎能力試験

点数配分の大きい数的処理と判断推理は新スーパー過去問ゼミで集中的に勉強し、解き方を覚えました。それ以外の分野は1問1答や、スマホアプリを用いて隙間時間に勉強しました。基礎能力試験は問題数が多く、時間配分が大事なので、得意分野で点数を落とさないように効率的に勉強すると思います。

● 専門試験(多肢選択試験・記述試験)

森林・林業実務必携や森林白書を利用しました。林学は専門外だったので、森林白書を繰り返し読みました。また過去問を取り寄せ、過去 3 年分の解説を自分で作りました。多肢選択は事前に選択する分野を決め、その範囲のみを集中して覚えることで対策しました。

記述は特に対策せずとも選択式の勉強を進めるうちに自然とできていたイメージです。

● 二次面接

人事院の面接は、面接カードに書かれたことを浅く広く質問されるので、事前に大学の就活相談室を利用して対策しました。同じ内容を色々な言い回しで言えるようにしておく、緊張した時でも難なく対応できると思います。

【官庁訪問】

官庁訪問は事前準備が8割、アドリブ力や場慣れが2割だと思います。訪問者カードを中心に質問されるので、志望理由やアピールポイントなど自分なりに深掘りして、質問されそうなことを予測しておくと思います。緊張するタイプの人は、慣らすために色々な人相手に面接練習をし

ておくと思います。

【内定までの過ごし方、心掛けたこと】

これといって大きく意識を変えたことや心掛けたことはありませんが、強いて言えば自然環境に関連するような内容のニュースは調べて収集していました。意外と自分を見つめ直すきっかけになったり、官庁訪問時での突飛な質問に対応できたりと、かなり役立ったと思います。

☆アドバイス、メッセージ

先にも述べましたが、試験勉強はとにかく効率的に行うと思います。基礎能力試験も専門試験も範囲が広いため全てを網羅するのはかなり大変です。過去問などから傾向をしっかりと分析し、頻出問題を落とさないように、合格点から逆算して効率的に勉強すると思います。面接対策は机に向かうより、人と話しながら行うと思います。友人や親族なども活用し、自分の想いを言語化していくと思います。私は面接が好きなタイプだったので、面接官としゃべりに行くくらいの軽い気持ちでいつも臨んでいました。面接官は敵ではないので、面接を楽しめるようになると、きっと上手く行くと思います。

ご健闘をお祈りしています。

なかったので、不安な方はキャリアセンターなどを利用して練習するのもいいかと思います。

当日の面接ももちろん重要ですが、訪問者カードを作成する過程もとても重要だと感じました。内容をまとめたり、添削を受けたりすることで、どうして自分はレンジャーになりたいのかを改めてじっくり考えることが出来ました。これが面接での受け答えにも繋がったと思います。また、訪問者カードは短い面接時間で自分のバックグラウンドや考えを伝えるための大事な資料なので、自分の熱意や思いを悔いなく伝えられるよう、とことん練り上げる事が官庁訪問成功のカギかと思います。

【内定までの過ごし方、心掛けたこと】

研究や試験、面接に追われて常に不安でしたが、とにかく手を動かして勉強や作業を進める事が一番の不安解消法でした。

長い道のりなので、煮詰まらないようにフィールドに出たり、美味しいものを食べに行ったりと、気分転換を積極的に行うことも大事だと思います。

☆アドバイス、メッセージ

不安になったり諦めなくなったりする事が沢山あると思いますが、根を詰め過ぎず気楽に頑張ってください。気分転換をしていると、ふと自分の原点を思い出す事もあります。

不確かな情報で一喜一憂することなく、これまでの自分の行動に自信をもってください。勉強も面接も、楽しみながら頑張ってください！応援しています！

☆アドバイス、メッセージ

試験勉強や面接練習のモチベーションを維持するためには、友人と切磋琢磨して高め合うことが大切だと感じました。また、勉強の合間に業務説明会や OB・OG 訪問などに参加することで、志望動機や自分が環境省に入ってやりたいことなどを再認識する機会になるので、積極的に参加することをおすすめします。

一次試験から内定までが長く、不安な気持ちになることもあると思いますが、最後まで諦めず全力を尽くしてください！応援しています！

内定者 T

☆プロフィール

【最終学歴】大学卒業見込み

【学年】大学 4 年

【併願先】林野庁、地方上級(造園職)

【参加した説明会・回数】自然系採用 WEB 説明会(7 回)、霞が関 OPEN ゼミ、
就職情報サイト主催の WEB 説明会、公務員予備校主催の説明会

【試験区分】林学

☆志望動機

自ら足を運び、現場目線で得た知見を政策づくりに活かせることが環境省の魅力だと考え、志望しました。私は、小さい頃から親しんできた近所の林が開拓されていく姿を目の当たりにしたとき、かつての自然に恵まれた環境が当たり前ではないことを痛感しました。それから、私は自然を守る仕事がかしたいと考えるようになりました。私は、環境省で自然と人間が共存できる日本を残す仕事がかしたいです。

☆内定者体験記

【勉強方法】

● 基礎能力試験

大学の公務員講座を受講していました。試験勉強を始めたのが試験の約半年前だったため、問題数の多い文章理解、数的処理を中心に対策しました。数的処理の中でも特に苦手な数的推理は、参考書を購入し、地方上級レベルの問題から解きました。

● 専門試験(多肢選択試験・記述試験)

専門試験の対策は独学で行いました。過去問を解き、答え合わせをした後、森林・林業白書や森林・林業実務必携などを使用して解説を作りました。解説は、重要用語を赤シートで隠せるようにし、すきま時間に見直しました。また、森林・林業白書には、選択肢に出てきた内容をマーカーでチェックしました。3 年分ほど解くと、近年よく出ている法律や用語が分かってくると思います。記述試験は総合職の森林・自然環境区分の対策をしたので、林学区分の記述試験対策は特にしませんでした。

【官庁訪問】

公務員講座の先生や友人など、なるべく多くの人に模擬面接をしてもらいました。人によって質問の内容が全く違うので、毎回とても参考になりました。模擬面接をしながら、自分のことを深掘りすることができました。

【内定までの過ごし方、心掛けたこと】

毎日勉強だと疲れてしまうので、オフの日も作りました。勉強する日は一日 9 時間程度を目標にしました。また、公務員志望の友人との勉強会を定期的に関き、わからない問題を教えてもらったり、不安なことをお互い相談しあったりしました。

☆アドバイス、メッセージ

私が試験勉強の中で、やってよかったと思う二つのことをお話します。一つ目は、多くの説明会に参加することです。時間がある場合は、環境省以外の説明会にも参加することをお勧めします。私は環境省が第一志望なのですが、他省庁や民間企業の説明会にも参加することで、何故自分は環境省が第一志望なのか、環境省は他とは何が違うのかを見つけることができました。また、環境省自然系 WEB 説明会に何度も参加することで、モチベーションを維持することができました。二つ目は、多くの人との縁を大切にすることです。公務員試験は情報戦がメインだと思います。より多くの人と関わることで、自分の知らなかった情報を手に入れることができました。また、試験直前など精神的に不安定になりそうなときは、家族や友人、公務員講座の先生など、多くの人から支えてくれました。

最後になりますが、皆さんのことを応援しています。

巻末資料

令和 6 年度入省予定の 20 名が公務員試験の勉強の際に使用した参考書・資料をご紹介します。
ぜひ参考にしてください。

☆:内定者からのアドバイス

太字:使用人数が多いもの

〈基礎能力試験〉

☆ほとんどの人が過去問中心の勉強です！会場持ち込みには速攻の時事！

- ・**基礎能力試験過去問(人事院)**
- ・**国家一般職(大卒)教養試験過去問 500(実務教育出版)**
- ・**大学生協 公務員講座テキスト**
- ・**速攻の時事(実務教育出版)**
- ・スーパー過去問ゼミシリーズ(実務教育出版)
- ・畑中敦子の判断推理ザ・ベスト(エクシア出版)

〈林学〉

☆林学試験過去問、森林・林業白書は林学区分受験者全員が使用していました！基本的には上の 3 点を使用し、それでもわからない内容はインターネットサイトで検索するのがおすすめです。

- ・**林学試験過去問(人事院)**
- ・**森林・林業白書(林野庁)**
- ・森林・林業実務必携(朝倉書店)
- ・環境省ホームページ(<https://www.env.go.jp/>)
- ・林野庁ホームページ(<https://www.rinya.maff.go.jp/>)
- ・国土交通省ホームページ(<https://www.mlit.go.jp/>)

〈農学〉

☆過去問中心の勉強がおすすめです。問題を解き、テキストの解説で理解を深めるといいと思います。

- ・**農学試験過去問(人事院)**
- ・スーパー過去問ゼミ 農学・農業(実務教育出版)

〈農業農村工学〉

☆過去問、必携、白書はマスト！必要に応じて三力(水理学・土質力学・構造力学)の参考書も！

- ・農業農村工学試験過去問(人事院)
- ・資格試験のための農業農村工学必携(農業農村工学会)
- ・食料・農業・農村白書(農林水産省)
- ・農業土木職採用試験 精選問題と解説(理工図書)
- ・土木職公務員試験 専門問題と解答(大学教育出版)

〈土木〉

☆計算問題が主なので、解答を暗記するのではなく、解説をしっかり読み、解法を理解するようにしましょう！

- ・土木試験過去問(人事院)
- ・技術系公務員 工学の基礎[数学・物理]攻略問題集 新版(実務教育出版)
- ・土木職公務員試験 専門問題と解答(大学教育出版)

〈官庁訪問〉

☆ほとんどの受験者が内定者の声を参考にしていました。ぜひ本稿を参考に対策してください！

- ・内定者の声(自然系一般職)
- ・説明会でもらった資料
- ・環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書(環境省)
- ・公務員講座等の参考書
- ・雑誌 国立公園(自然公園財団)

おわりに

内定者の声を最後まで読んでいただき、ありがとうございます。

この冊子に目を通し、環境省レンジャーを志望する際、何か参考にさせていただけたら幸いです。

本年度の内定者も例年と同様、年齢、性別、学部卒から既卒、専攻科目、官庁訪問経験者、アクティブ・レンジャー経験者など様々な特色を持つ内定者がいます。そのため、就職活動のやり方も人それぞれです。画一的にならず、オリジナリティに溢れてください。この冊子に目を通しての皆さんの今一番欲しい情報は、内定までの最短ルートかと思います(私達も何度も過去の内定者の声を熟読し探しました)。今思えば、色々な寄り道をしてきたなと感じます。寄り道している時は「私は何をすべき??この自己PRは正しいのか?」という不安だらけでした。真剣になればなるほど不安になります。そんな時は自分が志望したきっかけや将来やってみたいことを考えてみてください。内定者は共通して自然を守っていききたいという熱い思いで乗り越えてきました。この気持ちこそ最短ルートだと考えています。まだ就職活動をはじめたばかりの方や時間に余裕がある方は、説明会や国立公園などへ気軽に足を運んでみてください。そして、色々な人と話してみてください。様々な視点や考え方、新たな気づきを得ることができるかもしれません。

最後になりますが、環境省レンジャーを目指す皆様と共に働ける日を楽しみにしております!

令和6年度環境省入省予定
一般職自然系内定者一同

※環境省について

環境省職員には総合職と一般職いずれも事務系、自然系、理工系の3つの職種、そして地方採用枠(一般職)があります。この冊子は令和6年度環境省一般職自然系職種区分の内定者が作成しています。採用に関する情報に関しては以下のHPを参照ください。

○環境省 HP

<http://www.env.go.jp/>

○環境省_採用・キャリア形成支援情報 HP

<https://www.env.go.jp/guide/saiyo/>